

東大雪エリア

然別湖と糠平湖を中心に、ニペソツ山、ウペペサンケ山、石狩岳などの山岳に囲まれたエリアである。層雲峡からの国道 273 号線（糠平国道）で三国峠をこえて入ることもできるが、鉄道利用の場合は、JR 根室本線の帯広か新得から入ることになる。

然別湖

このエリア随一の景勝地である。森林に囲まれた自然性の高い湖沼景観を、湖岸からの探勝のほか、カヌーや遊覧船による湖上からの探勝もできる。また、冬季にはさまざまな氷上のイベントが行われる。公園入り口の扇ヶ原は、十勝平野と日高山脈を一望できる展望地点として知られる。また、東雲湖へのガイドツアーや凍結した湖上でのクロスカントリースキーツアーやスノーシューによるツアーが行われている。

また、然別湖の西、シシカリベツ川には然別峡があり、屏風岩、岩戸の滝などの見所があり、森林浴コースも設けられている。川沿いには鹿の湯をはじめ、多数の温泉が湧出している。



霧の湖を巡る



氷のイベント（然別湖コタン）

糠平湖

糠平湖は昭和 31（1956）年に完成した発電用ダムによる人造湖である。東大雪の山々をバックにした湖水の風景が景勝地として評価されている。糠平では一帯の自然をフィールドとしてカヌー体験やナキウサギ観察会などの体験活動が行われている。旧国鉄土幌線のコンクリート製アーチ橋がいまも多数残り、北海道遺産に指定されていることもあって訪れる人が多い。湖西岸沿いの線路跡は、北海道自然歩道として整備されている。



初夏のタウシュベツ橋



氷上のスノーシュー

Column

然別湖のミヤベイワナ



ミヤベイワナ

北海道の河川にはイwanaによく似て体側の斑紋の異なるオシヨロコマがすんでいる。主に大雪山や日高山脈、知床半島など山地の溪流にすみ、知床半島などにすむものは海に下って成長する。しかし、然別湖にすみ、川を遡って産卵するオシヨロコマは、えらの構造などから、然別湖固有の亜種とされ、ミヤベイワナの名前が付けられている。

東大雪の山々

表大雪の雄大なイメージと大きく異なり、石狩連峰、ニペソツ山、ウペペサンケ山など急峻な山岳がそびえ、それらの周囲には広大な樹海が広がり、奥深い自然を体感することができる。

然別湖の外輪山をなす東西のヌブカウシヌブリ、白雲山と天望山などは十勝平野や日高山脈の眺望に優れる。一部には低標高ながら永久凍土が存在し、多くの高山植物が見られ、ナキウサギの生息地ともなっている。



東大雪の夜明け



エゾツツジ



ミネズオウ

Column

十勝三股、今むかし

昭和 14（1939）年、国鉄土幌線が帯広から十勝三股まで開通すると、三股盆地一帯の森林伐採が盛んになった。十勝三股には製材工場ができて、北海道有数の木材の集散地となり、居住人口も 1,000 人以上になって、学校の分校も設置されるほどであった。しかし、第 2 次大戦後に道路が開通すると製材工場は上土幌に移転し、木材輸送も次第に貨車からトラックに置き換えられて、人口は減少した。昭和 53（1978）年、糠平～十勝三股間が列車からバス代行輸送となり、土幌線全線も昭和 63（1988）年には廃止されてしまった。

いま、無人の住居跡に咲くルピナスは、往時の名残である。そして、良好な森林環境と周辺の山岳の展望は、自然学習の好フィールドでもある。

かつての三股駅舎



なお、幻の鳥として知られ、国内では大雪山周辺からわずか 9 例の観察記録しかないミユビゲラが日本で最初に発見されたのは昭和 17（1942）年、繁殖がただ一度確認されたのは昭和 31（1956）年で、場所はともにこの地であった。



住居跡に咲くルピナス